

岩手県金融経済概況（2019年6月）

1. 概況

県内経済は、生産面の一部に弱めの動きがみられるものの、緩やかな回復基調を続けている。

最終需要の動きをみると、個人消費は底堅く推移している。公共投資は高水準ながらも減少している。住宅投資は横ばい圏内の動きとなっている。設備投資も横ばい圏内の動きとなっている。

生産は、一部に弱めの動きがみられるものの、緩やかに持ち直している。

労働需給は、引き締まった状況が続いている。

消費者物価（除く生鮮食品）は、30ヵ月連続で前年を上回った。

2. 最終需要

(1) 個人消費

個人消費は、底堅く推移している。

百貨店売上高（全店舗ベース；2019年6月）は、4ヵ月連続で前年を下回った（前年比 Δ 1.5%）。

スーパー売上高（全店舗ベース；2019年6月）は、8ヵ月連続で前年を上回った（前年比+1.1%）。

新車登録・届出台数（乗用車＜含む軽＞；2019年6月）は、3ヵ月振りに前年を下回った（前年比 Δ 2.1%）。

(2) 建設投資（公共投資、住宅投資、設備投資）

公共工事請負金額（2019年6月）は、2ヵ月振りに前年を下回った（前年比 Δ 34.7%）。

新設住宅着工戸数（2019年5月）は、2ヵ月振りに前年を上回った（前年比+1.3%）。

—— 持家（前年比+10.9%）は6ヵ月振りに前年を上回った。貸家（同△20.8%）は2ヵ月連続で前年を下回った。分譲（同+39.5%）は、2ヵ月振りに前年を上回った。

民間設備投資（2019年6月短観ベース；2018年度実績、2019年度計画）は、2018年度については前回調査比上方修正となったものの前年を下回った（前年比△7.2%）。また、2019年度については前年を僅かに下回る計画（同△0.7%）となっている。

—— 2018年度（実績）については、製造業では前年を上回る結果となったものの、非製造業では、卸・小売や対個人サービスでの投資一服から前年を2割方下回る結果となったことから、全産業では前年を下回った。

—— 2019年度（計画）については、製造業では、一部に先行きの景気の不透明感から投資を取り止める先がみられたことなどから、前年を僅かに下回る計画となっているほか、非製造業も前年を下回る計画となっている。

県内の官民建設工事全体の出来高総計（2019年5月）は、3ヵ月連続で前年を下回った（前年比△3.6%）。

3. 生産動向

生産は、一部に弱めの動きがみられるものの、緩やかに持ち直している。

鉱工業生産指数（季節調整値；2019年5月）は、2ヵ月連続で前月を上回った（前月比+0.1%）。

—— 主要業種別にみると、輸送機械、窯業・土石製品、電気機械が上昇し、生産用機械、食料品、金属製品が低下した。

なお、四半期の動きをみると、2019/1～3月は4期振りに前期を下回った（2018/4～6月：前期比+4.5%、7～9月：同+0.7%、10～12月：同+1.9%、2019/1～3月：同△6.4%）。

4. 雇用・所得動向

労働需給は、引き締まった状況が続いている。

有効求人倍率（季節調整値；2019年6月）は、1.37倍と高水準を維持して

いる（2013年5月以降74ヵ月連続で1.00倍以上で推移＜過去最長＞）。

雇用保険被保険者数（民間企業中心の全数調査；2019年6月）は、前年を上回った（前年比0.0%；2012年3月以降88ヵ月連続で増加）。

雇用者所得（県内合計値；2019年4月）は、名目賃金指数（前年比+1.4%）が前年を上回ったものの、常用雇用指数（同△2.4%）が前年を下回ったため、16ヵ月連続で前年を下回った（同△1.0%）。

5. 物価

消費者物価指数（除く生鮮食品；2019年6月）は、家具・家事用品、光熱・水道等の上昇により、30ヵ月連続で前年を上回った（前年比+0.2%）。

6. 企業倒産

企業倒産（2019年6月）は、3件、121百万円（前年同月；3件、79百万円）と、落ち着いた動き。

7. 金融面の動向

県内民間金融機関の預金・貸出（2019年5月）は、預金は14ヵ月振りに前年を上回ったほか、貸出も前年を上回った。貸出約定平均金利（2019年5月）は前月に比べて低下した。

以 上

本件に関する問い合わせ先：

日本銀行盛岡事務所 TEL：019-624-3622（代） <http://www3.boj.or.jp/morioka/>